

虎の巻シリーズ 其の三

学校で使える「虎の巻」

発達障がいのある人たちへの八つの支援ポイント

札幌市



はじめに

「すずと、小鳥と、それからわたし、みんなちがって、みんないい。」と結ばれている童謡詩人・金子みすゞの代表作「わたしと小鳥とすずと」。みんな違うけれど、それぞれによさがあり、それがいいという素朴で力強いメッセージが伝わってきます。違うことは本来、優劣ではないはずです。しかし、違うことで意思の疎通が難しかったり、悩んだり、苦しんだり、心を痛めたりしている方々も少なくありません。

札幌市では、発達障がいのある人たちが社会で十分活躍できるよう、支援体制づくりに取り組んでいます。この冊子では、これまで札幌市保健福祉局就労支援プロジェクトが制作してきた「虎の巻シリーズ」の「職場編」「暮らし編」に続く第三作として、主人公である「虎夫さん」「卷子さん」の小学校時代に遊んでみました。制作にあたっては、札幌市教育委員会と札幌市保健福祉局虎の巻作成プロジェクトが中心となり、発達障がいのある人たちへの支援に携わる関係者の協力を得ています。

発達障がいのある人などが、「止むに止まれず」起こしてしまう行動などに焦点を当て、その感情や行動の背景などを目に見る形で表現し、解決に向けた対応の一例を示しています。多様で豊かな価値感が共存する社会のために、この冊子を相互理解のきっかけとしてご活用いただければ幸いです。

平成25年 札幌市教育委員会 虎の巻作成プロジェクト 札幌市保健福祉局

登場人物の紹介

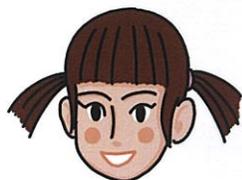
虎夫くんは自閉症、卷子さんはアスペルガー症候群という広汎性発達障がいの診断を後に受けることになります。二人は様々な経験をしながら成長し、それぞれの職場で活躍していきます(詳細は『職場で使える「虎の巻」』、『暮らしで使える「虎の巻」』をご参照ください)。

しかし、小さい頃の二人は…。



虎夫くん

虎夫くんは、まわりのことを考えたり、全体を見渡したりするのが苦手で、みんなで何かに取り組むときにちょっとしたトラブルを起こしがち。先生もクラスメイトもそんな虎夫くんとうまく関わらず、“ちょっと困った児童”として捉えていました。でも、まわりの考え方や接し方が少し変わることによって、虎夫くんの学校生活に大きな変化が!!



卷子さん

卷子さんは、周囲とのコミュニケーションがうまくとれず、時としてえらそうに見えたり、いい加減な児童だと思われることもしばしば。友だちもそんな卷子さんに半ば呆れ顔で、人間関係をうまく構築できない状況にありました。でも、先生やお母さんがきっかけをつくったことによって、卷子さんの学校生活に大きな変化が!!

※今回は、自閉症やアスペルガー症候群などの広汎性発達障がいの診断を受ける前の児童への対処方法を中心に制作しました。

この虎の巻は、当事者の方たちの体験談を元に、学校生活において、発達に凸凹のある

子どもたちのまわりで発生しがちな“認識の違いを **ギャップ!!**”として表現し、

その解決策となる支援ポイントを **チェンジ!!**”として示しています。

双方の理解が深まるほど **グッドジョブ!!**”という好結果につながります。

学校で使える

「虎の巻」もくじ

●虎夫くん編

虎の巻 得意分野

虎の巻 ぞのー 機会があれば才能発揮…………… 4



虎の巻 全体把握

虎の巻 ぞの二 見通し立てば迷わず集中…………… 6

虎の巻 音量調節

虎の巻 ぞの三 調和の力ぎは数値表示…………… 8

虎の巻 広がる世界

虎の巻 ぞの四 サポートで生まれる友達の輪…………… 10

●卷子さん編

虎の巻 計量マスター

虎の巻 ぞの五 詳細指示で誤りなし…………… 12



虎の巻 実演解説

虎の巻 ぞの六 実演と説明が手本をつくる…………… 14

虎の巻 直球すぎると

虎の巻 ぞの七 言い方変われば相手も変わる…………… 16

虎の巻 恋の話は慎重に

虎の巻 ぞの八 タブーの理解でクラス円満…………… 18

どの子も輝く学級へ…………… 20

「発達障害」とはどんな障害?…………… 22

札幌市内の相談窓口…………… 23

得意分野

機会があれば才能発揮



みんな
知りたいと
思ってたのに...

ギョッブ!!

チェンジ!!

話が止まらなくて
授業に
ならない...



才能を 発揮 できた!!

グッド ジョブ!!

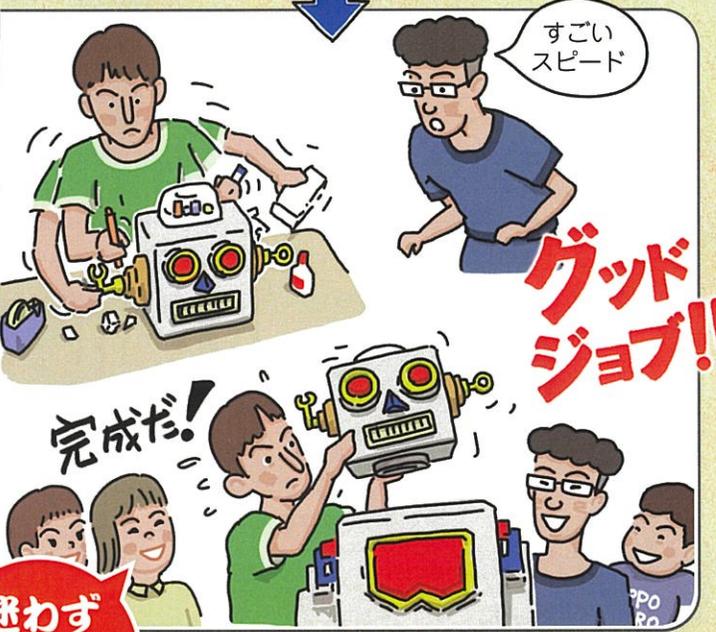
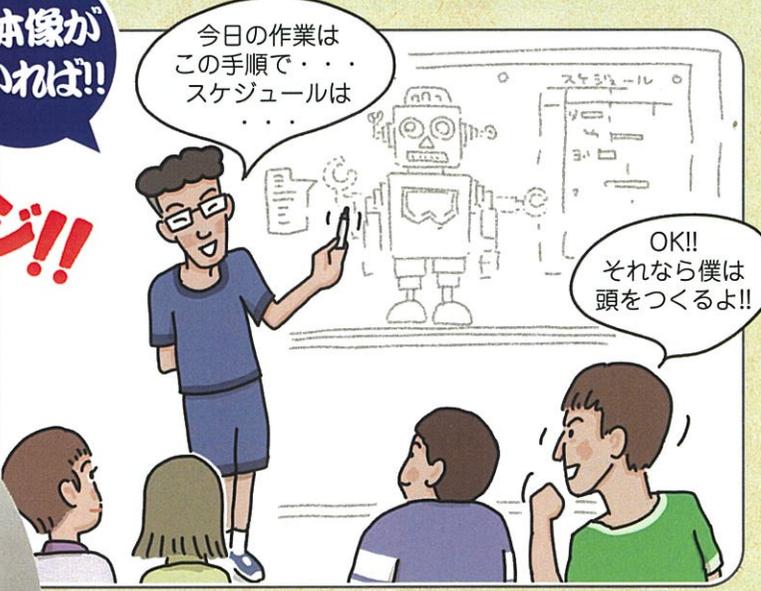
大好きな歴史の話になると一方的に話し続けてしまう虎夫くん。先生や同級生はそのたびに困り顔。得意なことを適切に表現できる機会が用意されることで、力を最大限に発揮できました。

全体把握 見通し立てば迷わず集中



全体像が
わかれば!!

チェンジ!!



迷わず
集中
できた!!

全体の見通しが立たないと自分の役割がつかめない虎夫くん。不安で作業ができません。全工程と完成イメージが最初に図示されることで、本来の手先の器用さを発揮してグループに貢献できました。

音量調節

調和のカギは数値表示

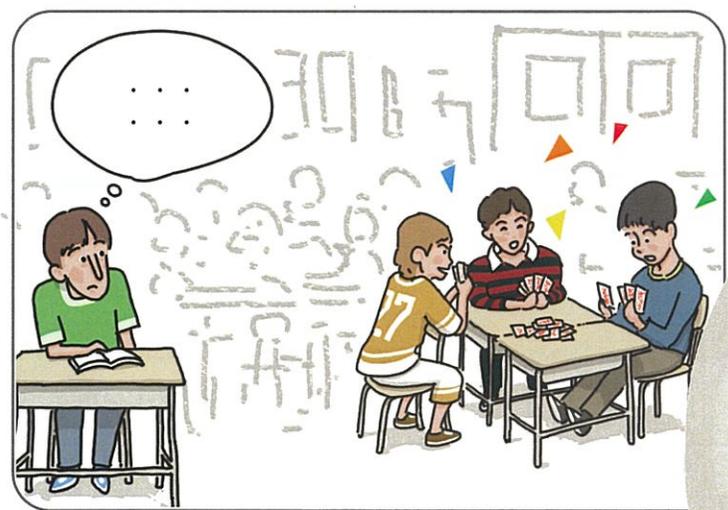


ハーモニーが生まれた!!

「元気な」の度合いを感じ取るのが難しい虎夫くん。調和を乱してみんなから浮いてしまいました。適度な音量が図と数値で示されることで、ちょうどよい音量になり、美しいハーモニーが生まれました。

広がる世界

サポートで生まれる友達の輪



たまにはみんなと
いっしょに
やりたいけど...

チェンジ!!

サポートが
あれば!!



数日後



世界が
広がった!!

大勢で騒ぐのは苦手な虎夫くんも、少人数で、たまになら、友だちと過ごしてみたいと思っています。先生が間に入ることで、スムーズにクラスメイトの輪に入ることができ、仲間も増えました。

計量マスター 詳細指示で誤りなし



詳細な指示なら!!

チェンジ!!



早く完璧にできた!!

曖昧な表現を受け取るのが苦手な卷子さん。不安で固まっているのに「やる気がない」と思われてしまいます。指示が具体的になることで、自信が生まれ、授業に積極的に参加できました。

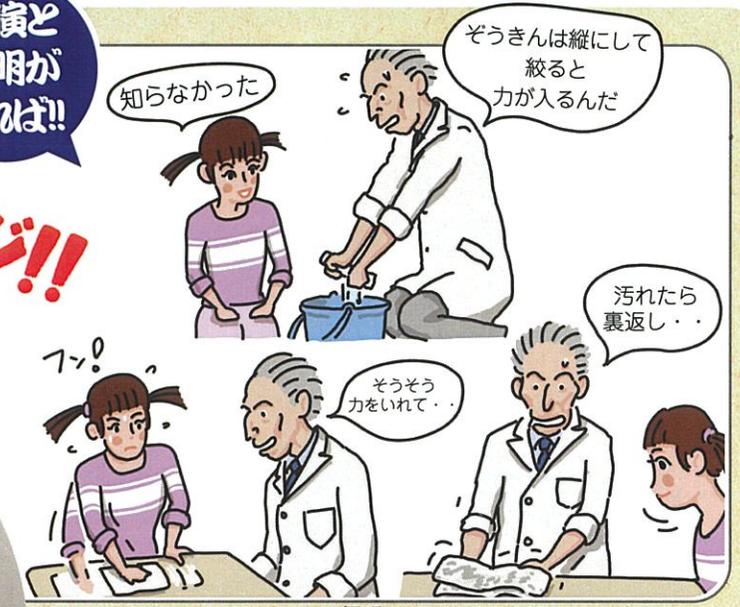
実演解説

実演と説明が手本をつくる



チェンジ!!

実演と説明があれば!!



手本になった!!

作業の役割が曖昧だと動けない卷子さん。道具も適切に使えません。実演と詳細な説明によって道具の使い方を身につけ、役割も理解し、短期間でみんなのお手本になりました。

グッドジョブ!!

直球すぎると

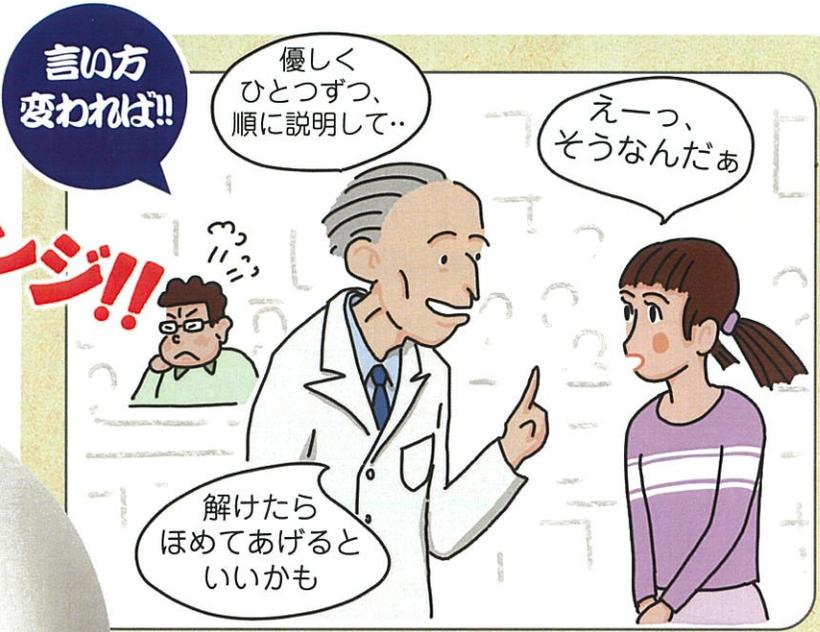
言い方変われば相手も変わる



ヒロくんのために
なってよかった

ギャップ!!

チェンジ!!



あんな風に言われたら・・・傷つくよ



感謝された!!

グッドジョブ!!

相手の気持ちを推し量るのが苦手な啓子さん。思ったことをそのままにして相手を傷つけてしまうことも。言い方のコツを知ること言葉が柔らかく伝わり、クラスメイトも感謝してくれました。

恋の話は慎重に

タブーの理解でクラス円満



ギャップ!!

タブーが見えたら!!

チェンジ!!



グッドジョブ!!

話がはずんだ!!

暗黙のルールに気づくのが苦手な卷子さん。親切心から出た言葉で友だちを傷つけてしまいました。会話のタブーを図と言葉で理解することで、仲間とよりよいコミュニケーションがとれるようになりました。

どの子も輝く学級へ

特別支援教育の目指すところは「教育のユニバーサルデザイン化」です。発達障がいのある子どもも、その特性が理解され適切にサポートされることで、本来もっている多彩な能力が引き出されます。また、このことは彼らだけではなく、どの子にとってもやさしい学級づくりの一步でもあります。

その後の虎夫くんは



仲良く遊べる仲間もでき、周りにも虎夫くんの良さが理解され、得意なこと活躍の場を得ることができました!!

その後の卷子さんは



クラス内でのコミュニケーションもスムーズになり、仲のよい友だちもできて充実した学校生活を送ることができました!!

様々な人の助けを借りながらも成長し、青年への階段を上がっていく虎夫さんと卷子さん。しかし、思春期には思春期の、社会人には社会人の悩みが…。

発達障がいのある人たちが職場や暮らしにおいてトラブルになりがちな「認識の違い」とその解決策となる支援ポイントを示した『職場で使える「虎の巻」』、『暮らしで使える「虎の巻」』も、ぜひご覧ください。

<p>職場で使える「虎の巻」</p> <p>発達障がいのある人たちが職場や暮らしにおいてトラブルになりがちな「認識の違い」とその解決策となる支援ポイントを示した『職場で使える「虎の巻」』、『暮らしで使える「虎の巻」』も、ぜひご覧ください。</p>	<p>一目瞭然 見本を見れば完成度アップ</p> <p>見本を 見せた!!</p> <p>わかりました! こうやって やってください</p> <p>チェンジ!!</p>	<p>ゆつまでに 期限わかれば集中力倍増</p> <p>期限を正確に 伝えたい!!</p> <p>このデータ入力 15時までに 終わらなくて</p> <p>はいっ!!</p> <p>チェンジ!!</p>
<p>暮らしで使える「虎の巻」</p> <p>発達障がいのある人たちが職場や暮らしにおいてトラブルになりがちな「認識の違い」とその解決策となる支援ポイントを示した『職場で使える「虎の巻」』、『暮らしで使える「虎の巻」』も、ぜひご覧ください。</p>	<p>感じ方の違い 違いに気づけばわかり合える</p> <p>感じ方の違いに 気づいたの!!</p> <p>いきなり 「ワー」って 叫んだんです</p> <p>音が痛いくらいに 感じている可能性も ありますよ</p> <p>チェンジ!!</p>	<p>想像力 期限を決めれば現実に目覚める</p> <p>期限を 決めたい!!</p> <p>具体的な言葉で 伝えてください</p> <p>受動動機で 応じているのは 第一じゃない</p> <p>見守って るよ</p> <p>ありがとう</p> <p>チェンジ!!</p>

この冊子をご利用になる方へ

この冊子の作成にあたっては、関係者で構成されたプロジェクトで度重なる議論を行うとともに、可能な限り、当事者の方の意見なども伺ってきました。この冊子が同様の悩みをもち苦しんでいる方々へ、少しでも「希望」を届けたいとのお考えから、「グッドジョブ」として表現する最後のコマを「限りなくベスト」な結果として描くこととしました。

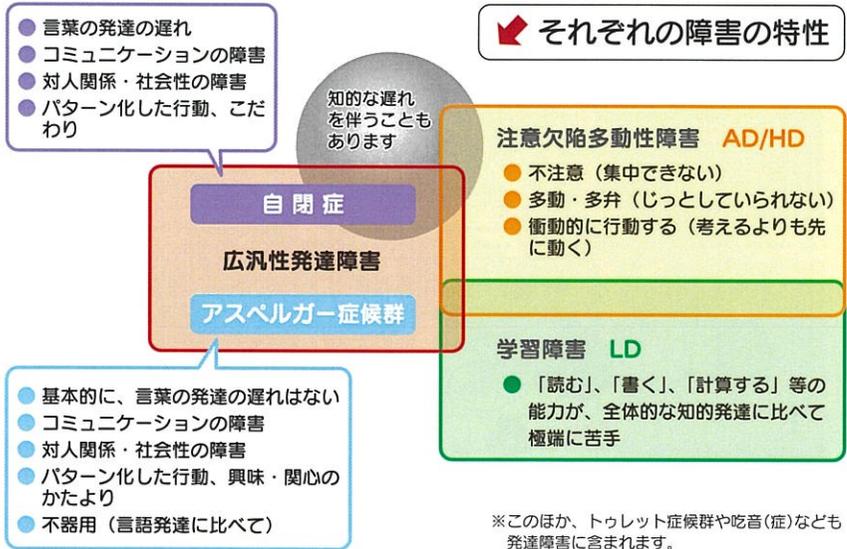
実際の現場においては、「チェンジ」として掲示したような解決策が短期間でベストな結果を生み出すことは少なく、様々な状況改善の手立てと長い時間をかけた上で、ようやく少しだけ解決に近づく、といったケースが一般的です。

発達に凸凹のある子どもたちを「特別な子ども」として扱うのではなく、みんなそれぞれが違うということを受け止め、それぞれの特性に合わせたサポートが行われていくことで、どの子もいきいきと活動できるクラスへと成長していく、そんな一歩を踏み出してもらうための一助として、この冊子が活用されることを期待しています。

「発達障害」とはどんな障害？

発達障害は、脳機能の発達が関係する障害です。

発達障害がある人は、コミュニケーションや対人関係をつくるのが苦手です。また、その行動や態度は「自分勝手」とか「変わった人」「困った人」と誤解され、敬遠されることも少なくありません。その原因が、親のしつけや教育の問題ではなく、脳機能の障害によるものだと周囲の人が理解すれば、接しかたも変わってくるのではないのでしょうか。



出典：政府広報オンライン「発達障害とはどんな障害？」

<https://www.gov-online.go.jp/featured/201104/#firstSection>



一人で悩まず、まずはご相談ください。

札幌市内には、子どもの発達について悩みを抱える方やそのご家族への支援を目的とした行政機関や専門機関があります。お気軽にご相談ください。

【教育相談、就学相談に関すること】

札幌市教育センター（西区）
 西区宮の沢1条1丁目1-10
 教育相談室(受付) 011-671-3210
 幼児教育センター 011-671-3454

【発達障がい者の支援に関すること】

札幌市自閉症・発達障害支援センターおがる（東区）
 東区東雁来12条4丁目1-5
 011-790-1616

【精神保健福祉に関すること】

札幌こころのセンター（中央区）
 中央区大通西19丁目 WEST19
 011-622-0556

【発達の遅れ、障がいに関すること】

札幌市児童相談所（中央区）
 中央区北7条西26丁目
 011-622-8630

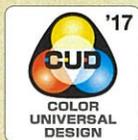
特殊教育から特別支援教育への転換が行われ、発達障がいなど、通常の学級に在籍する子どもが抱える課題についても、広く知られるようになってきました。しかし、正しい理解が不十分であったり、逆に、診断名にとらわれすぎ対応が画一的になってしまうなどの傾向も見られます。大切なことは、相手との認識の違いなどがあることに気付くことだと思います。結びに、この冊子の作成にあたり、当事者の方からいただいた言葉を掲載します。

小学校から高校までの学校生活で最も苦労したのは、「友だちをどうやってつくるか」ということでした。他の人に心を開くことができず孤立する一方、人と心を通わせることや一緒に楽しむ経験に飢えていて、その現実と欲求とのギャップに苦しんでいた日々でした。

発達障がいのある人は、その傾向の一つとして「一人でいることを好む」と言われますが、決してそんなことはないと思います。どうやって人とつき合ったらいいのかわからなかったり、人と話していても興味や関心の違いが原因で共感されにくかったり、そういった傾向が元で人より人間関係での失敗が多いのです。それで怯えてしまったり、自分を守るために積極的になれなかったりした結果、安心や避難を求めて一人でいることが多くなってしまふ…という仕組みがある気がします。つまり「一人で居たい」とか「一人を好む」と言った傾向は、そのような対人関係の困難さを処理しようとした結果、表面化してきている問題の一種ではないでしょうか。

たしかに、一人で出来る事が好きだし、一つの事に強く集中する傾向もあります。けれど、「一人で出来る＝一人でやらせておいていい」ではないと思うし、「一つの事に集中する＝それが大好き」ではない場合もあるのです。

学校の先生方が「発達障がいのある子はこういう子」といって、発達障がいの知識や対処法で機械的にその子を決めつけなくて、「一人でいるのは心配だなあ」とか「勉強はよくできるけど、どうも元気がないなあ」といった当たり前の感性を大事にして、声や気をかけていただけたらなあ、と思います。（原文のまま）



この冊子は色覚の個人差を問わず、
できるだけ多くの人に見やすいよう
カラーユニバーサルデザインに配慮して
つくられています。

当プロジェクトでは、障がいのある人たちも含め、より多くの方々にこの冊子を手にとってもらいたいという思いと、ユニバーサルな考え方がより一層浸透し、誰もが暮らしやすい社会になってほしいとの願いから、「カラーユニバーサルデザイン」を導入しました。

学校で使える「虎の巻」

発達障がいのある人たちへの八つの支援ポイント
令和8年1月発行

制作／札幌市教育委員会 虎の巻作成プロジェクト 札幌市保健福祉局

発行／札幌市教育委員会

〒060-0002 札幌市中央区北2条西2丁目 STV北2条ビル

TEL:011-211-3851 FAX:011-211-3852

表紙デザイン・イラスト／栗田 正樹



さっぽろ市
01-F04-25-2284
R7-1-141